

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

| | | | |
|---------|---------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0692600034 | | |
| 法人名 | ㈱ジェイバック | | |
| 事業所名 | もも太郎さん 高島 | | |
| 所在地 | 山形県東置賜郡高島町大字深沼19番地3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月30日 | 開設年月日 | 平成22年11月1日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の中でなるべく自然な形でADLを維持できるように支援しています。また、日々の暮らしの中で充実感をもって頂けるように、できる事やできない事を把握しケアを実施しています。年間行事計画を作成しご家族様、地域の方との交流も図られています。事業所での取組みや活動は、もも太郎さん便りにて新聞を発行しご家族様・外部の方への報告で情報発信を行っています。これまでの関係を維持し地域に根ざした事業所を目指していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|-------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3—31 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月25日 | 評価結果決定日 | 平成26年12月18日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の地元の利を活かした地域とのつながりは年々深まり、毎日立ち寄り子供達との交流は日課となり、利用者には良い刺激となって互いに待ち遠しい関係ができています。法人の教育・運営・問題委員会を中心に、接遇スローガンのもと職員のレベルアップに取り組み、一人ひとりの意識高揚を図っています。また、担当者は利用者・家族との信頼関係づくりに心がけ、職員間で連携を図りながら、一番の理解者になることを目指しています。さらなる地域からの理解と利用者の「〇〇したい」に添えていけるよう、管理者・職員一体となってサービスの質向上に励んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自 己 外 部 | 項 目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|--------|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 接遇スローガンを作成し朝礼にて全員で唱和し実践に繋げている。また、スローガンの重要性を確かめる為に個々に面談等を実施している。 | 接遇スローガン「尊重します」「連携します」「向上心をもちます」には細項目があり、その中の一つを職員一人ひとり月目標として掲げ、どう取り組んだか管理者と共に振り返りながら、より良いサービスを目指している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 家族会等で事業所の年間行事を配布し、地域の方々への参加を募りつながりを大切にしている。また学校の通学路にもなっているので児童を見守りながら誰もが来訪できる施設を見指している。 | 事業所の行事(避難訓練・敬老会・芋煮会など)は公民館だよりや回覧板で参加を呼びかけ、地域の祭りには事業所からも参加して交流を深めている。また、利用者は毎日のように通って来る子供達から元気もらっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に参加されたご家族様や民生委員の方にホームでの生活状況をお話し、支援方法などの説明を実施している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、利用者様の暮らしぶり等を伝えながら出席された方の意見や質問に答え、助言等をいただきサービス向上に努めている。また、他事業所の取組み情報を頂いている。 | 事業所からは近況・日常生活・活動状況の報告や前回の課題や要望への対応策を返答している。町行政や町内会長等からも情報をもらい双向方向的に意見交換しているが、参加者が増えないのを課題としている。 | 家族には毎回案内を出し出欠の確認もしているが、現状は限られたメンバーになっている。会議にテーマや参加しやすい工夫などをして、より活性化することに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町行政、住民課との方々に相談、指導、助言等をいただくなど連絡を行い、事業所の取組み方を報告している。 | 町行政とは良好な関係を築き、研修会等にも参加して常に情報交換を図り、取組みに活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 利用者様の趣味を把握し、気分転換等で不安や心配を取り除く工夫をし、鍵を掛けないよう見守りしている。また、職員全員が身体拘束の理解をしている。 | 毎月のミーティング前に教育委員会が中心となって勉強会を開き、身体拘束の行為等の確認・周知を図っている。外出したがる利用者にはプランに組み入れ、ドライブで気分転換を図るなど理念にもある「自由」を実践している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高島町高齢者虐待防止連絡会に参加し、その時の資料があり、虐待の種類など定期的に勉強会を実施し知識向上に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度の資料があるが、権利擁護に関しては十分な理解が出来ていない部分があるので知識、理解を深めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際、契約書の重要事項説明書の内容を読み上げ同意を得ている。不安や疑問点があれば説明も実施している。また、個別に相談を受けるなどして、安心していただけるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見や要望を気軽に発していただけるように”意見箱”を設置している。入居者だけではなく、御家族様に面会時、利用者様の近況情報などの話す事になっている。 | 担当者は利用者・家族等から信頼を得て関係性を密に、意見・要望の把握に努めサービスに活かしている。「もも太郎さん便り」の写真から活動や日常生活を見てもらい、担当者からのコメントも載せて家族に送り好評を得ている。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定例のミーティングとユニット会議を実施し、職員同士何でも話あえる環境で自由に意見をだし、意見交換をして聞く機会を設け運営に反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者、管理者代行は職員と常に話合える環境が確立されており、施設全体の状況の把握を行っている。また、管理者は職員の個人面談等で職員の意見を反映し環境、条件等の配慮するようにしている。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内研修は都度実施しているが、外部や社外研修が充実していない。今後は協力医、協力歯科の先生にて外部研修をお願いする予定になっている。 | 教育委員会を中心とした内部研修は充実しており、職員も資格取得に向けて意欲的な姿勢が見られ、法人のバックアップ体制も整っている。外部研修は前半人員が整わず受講できなかったが、後半はレベルに合わせてシフトを組み体制を整えて取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | グループホーム協会へ参加してる。また、地域の介護支援専門員の情報連絡会に参加し同業者間での交流、勉強会を実施している。 | 置賜地区や町主催の会議等に参加して情報交換すると共に、法人内で交換研修を行い互いの介護・業務向上に役立っている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前調査時、現在の生活の様子や昔から行ってきた事、これからも続けていきたい事を聞き、同じ生活ができるよう提案している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様には小さな事でも話していただけるように心掛け関係を保っている。話をする事で本人の情報を共有できる。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、ご家族様から話を聞き、本人に合った支援を提案している。どちらかの意見に片寄ったものではないよう対応している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ケアを実施する時は、声掛けを実施し出来る事はご自分で実施していただいている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、現在の状況を報告している。毎月の「もも太郎さん新聞」を発行し、さまざまな事も記入してお伝えしている。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで利用されてきた美容室等があれば、引き続き利用できるようご家族様にも協力を依頼している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食席に配慮しテーブルのレイアウトも実施し孤立がないよう支援している。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了されたご家族様が来訪され、季節の野菜等を頂き、時には相談される事があり、関係を断ち切らないようにしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 帰宅願望や季節の変わり目で「外に出たい」と思う言動をみて、外出の機会を設ける。冬期間はリスクを含めご家族様と話しプランに上げる。 | 利用者との1対1の時間を大事にして、ふだん聞けないことや何気ない会話の中から思いや意向を汲みとるように心がけている。また、家族等からも情報を得て、朝のミーティングやユニット会議等で話し合い共有に繋げている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実態調査で分からない部分は、親族の方の訪問や日常の会話から情報を得ている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | できる限り在宅での生活スタイルを崩さないように実施している。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のカンファレンスで気になった事、状況変化などをまとめ、ご家族様との話し合いでプランに上げていく。 | 心身共に安全が一番と捉え、できることを目標にして作っている。ユニット会議で職員全員の気づきを話し合い、介護記録を基に継続か見直しを検討して、現状に合わせてサービスの変更も行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に記入している事をカンファレンスの場で共有し、見直し実践している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方や、御家族様参加による行事等を実施している。その際、消防職員の協力を得て、御家族様合同で地震対策による避難訓練なども実施の経緯もある。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期受診、往診時に先生宛に現在の状態を記入した事を渡し確認していただき、薬の調整等をお願いしている。 | ほとんどの利用者が月に1回の協力医の往診を希望している。結果は申し送りノートに記入して全員が確認し家族には電話で報告している。夜間や緊急時にはマニュアルに沿って対応している。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤勤務ではあるが、看護職員が勤務して職員に御利用者様の状況を報告、受診が必要な時であれば看護職員が医療機関に連絡するなどの対応を予定している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中にオムツやパットを病院に持参し、その時に看護師より状態の変化をお聞きしている。それを踏まえて相談室を通退院の連絡を得ている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | プラン作成前、ご家族様が来所された際、現在の状態と延命の有無を説明し施設側の支援についてご理解を得るようにしている。 | 契約時に重度化した場合の説明をすると共に早期より話し合いをしている。また主治医と連携して利用者や家族が納得のいくケアに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDが施設にある為、施設内で使用方法について研修を実施している。定期的に避難訓練も実施している。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中・夜間想定避難訓練時消防署員より助言、アドバイスを頂き参考にしている。 | 消防署の立会いの下、利用者と家族や職員の参加で年2回の避難訓練を行っている。運営委員会を中心に、常に避難経路や連絡網の確認などを行い、AEDの講習も実施している。職員の中には地元消防団の現役やOBがおり、備蓄も3日分を確保して安心に繋げている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の生活歴を熟知した上で、守秘義務を守り声掛け対応を実施している。 | 親しくなっても馴れ合いにならないように気をつけ、利用者の職歴などを把握し尊重した言葉かけをしている。話の内容によっては別の場所で話をするなどプライバシーにも配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が常に自分自身の希望を表現できるように声掛けをしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様が自由に過ごせる様に個人のペースに合わせて生活ができるように支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様の希望に合わせた洋服選びを心掛けている。希望に合った散髪も出来るように支援している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の食べ物を聞きながら、食べたいメニューを聞いたり、作り方を教わりながら食事を調理しています。できる方は食器やお盆ふきを手伝って頂いています。 | 買い物や調理片付けなど担当を決めて手伝ってもらっている。食事は利用者の一番の楽しみ事として、嗜好調査なども実施し献立に活かしている。誕生月には希望メニューで祝い、回転寿司やファミレスなどの外食にも出かけ喜ばれている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者様の食事量と水分量を毎日チェックしており、個別援助を実施しています。また、嗜好を取り入れながら栄養バランスも考えながら提供しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の方は就寝時にお預かりし除菌洗浄。自歯の方は食後歯磨きを実施して頂き、必要な方には職員が付き添い支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | できる限りトイレでの排泄を支援し、必要とされる方には排泄パターンやその時の状態を把握して、その人に合ったトイレ誘導を実施している。 | 排泄チェック表を活用して時間を見計らって声がけをするなど出来るだけトイレでの排泄を促し、自立の利用者は現状維持を保てるよう努めている。失禁時には同性の職員が対応し利用者の心情に配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェック表にて把握し食事には乳製品を提供したり、往診の主治医の先生により必要であれば下剤にて排泄調整を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 1人1人に声掛けし入浴を促している。心疾患のある方には、半身浴を行ったり健康状態に合わせた入浴方法にしている、また入浴剤を利用し気分を変えていただいたりしている。 | 毎日希望の時間で入浴をしているが夕食後の希望が多いため、職員は勤務時間の変更などで対応している。浴室には可動式や固定式のですりを取り付け、リフトも設置し安全に入浴ができるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は、本人の希望に合わせてホールでリクライニングソファにて休んで頂き、なかなか寝付けない利用者様にはホールにて話を聞いたり暖かい飲み物を提供し入眠を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診後に届く薬は各利用者様のケースファイルにて職員が目を通す事ができるようになっている。薬が変更された時には申し送りを実施し状態の記録を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | おり紙・トランプ・和歌集等を準備し常に利用者との会話を多くするよう心掛けている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節に合わせた花見～紅葉のドライブを天気の良い日に少人数でも出かけるようにしている。外出が困難な利用者様には玄関のテラスにて休憩して頂いている。 | 買い物や車椅子での散歩など個別の外出や、みんなで季節ごとの花見、地元の祭りなどにもよく出かけている。特に食事つきのドライブは多くの利用者が楽しみにしている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様の状態に応じて所持されているが、基本的には持ち込んで頂いていない。必要であれば職員が買い物実施し立替にて対応している。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話の所持を含め、本人や家族の希望に沿って電話や手紙を利用して頂いている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有のホールには季節感のある花を飾ったり、芳香剤等を置き、リラックスできるように配慮している。利用者様が作成した作品も飾っており、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 滑りにくく衝撃緩和性のある床材を使用し安全に配慮している。ホールでのんびり過ごす利用者が多いが、1階と2階を同じ造りにして互いのユニットを訪問し合って外出気分を味わっている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 歌番組が好きな方には、録画したものをかけたりトランプ・オセロ等好きな方は職員や、利用者様同士で楽しんでいます。休みになると近くの小学生が来訪され楽しくゲームを行っています。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人がご自身のもので認識している衣類や、家具等をもってきていただくよう持ち込みをお勧めしている。思い出に残っている写真などを飾っていたい。 | 家具の持ち込みが自由で希望によってはフロアを畳の部屋にも対応している。各ユニットに2つの家族部屋があり同居が可能で、どのタイプの部屋も広くゆったりしている。家族や思い出の写真を壁に飾り、穏やかに暮らしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの入室表示や居室扉の表札、洗面所には自身の物に名前を付けたり工夫している。手すりの設置、居室内での家具の配置等で自立した暮らしができるよう配慮している。 | | | |